

2020.11.30 甲府市議会本会議

私たちは甲府市職員の 一時金〔ボーナス〕削減に反対しました！

甲府市議会 山田 厚

●議案第105号に不同意であり。反対討論を行います。この条例案は、甲府市の一般の職員の方々の**一時金つまりボーナスを0.15ヵ月の減額**をするというものです。

私たちは特別職の幹部や議員の減額には反対しません。しかし一般の職員一人当たり平均約5万3千円の削減には同意できないのです。これは昨年の減額、平均1万9千円に続く連続した減額であり支給月数の削減です。

また会計年度職員の方々にも、**来年度には減額が予定**されることになります。

●もちろん、地域の民間の方々も、民間労働者の方々もコロナ感染症災害で苦しんでおられます。「だから同じように苦しんでいい、ガマンしろ」では地域の悪循環を加速させるだけです。そして給与の削減は、この物価高の情勢において甲府市の消費経済をも低迷させ続ける傾向になるだけです。

●もっとも問題なのは、市の職員の方々の置かれている実態です。考えてみてください！ この2～3年間ほどの仕事の実態を。甲府市は2019年度に中核市に移行し事務量とイベントが多大に増えました。それに加えコロナ感染症の対応の2年間です。膨大な業務量が長期にわたっています。

●つまり職員の皆さんの**業務量は今までになく激増しつづけている**のです。

当然、長時間過密労働となります。昨年度は、「月の残業80時間.100時間」となり面接指導となった職員数は314人、今年度は半年間ですでに247人とお聞きしました。この月80時間とか100時間の残業時間とは、いうまでもなく「過労死ライン」ではないですか。

●この2～3年間で、市の職員の方々の心身は疲弊しています。健康診断結果 傷病休暇数 病気休職数 自己都合退職数 は増え続けているではありませんか。現職死亡者や公務災害認定死亡者もありました。

●甲府市で働く、医師や看護師さん、保健所方々、学校職員や窓口業務や福祉関係の方々など、また、これらの職員の方々だけでなくワクチンの接種の対応などにみられるように、どの方々も社会を支える**必要不可欠なエッセンシャルワーカー**となっています。つまり市の職員全員がエッセンシャルワーカーなのです。

私たちはこの地域社会を支えている方々に感謝すべきではありませんか。

●私たちは、この困難なコロナ災害期に立ち向かい、懸命に市民生活を支えている職員の方々を**励まし、ゆとりと人手を確保**しなければなりません。

その逆となる政策対応は市民の皆さん「いまま市職員はラクをしているから」といった誤解さえ与えることになりかねません

●したがって私たちは、社会を支え頑張り続けていただくためにも、今回の削減に反対するものです。

以上

以上は、2020年11月30日の本会議での山田厚の討論原稿です。コロナ災害の事態でこそ、生活と健康・安全衛生を最優先にしなければなりません。労働者と組合を励ますためにも、私たち会派（2名）は反対しました。なお結果は27対4〔うち共産党2名〕でこの条例が採択されました。なお、多数の賛成議員は、慣例と異なり、議会としておかしいことですが一人の議員も賛成討論をしませんでした。したがって反対討論だけで、減額が採択されたのです。